焼酎「酔い頃」ネットで　楽天で13日から販売　ＪＡ豊頃町　2018年7月11日

【豊頃】ＪＡ豊頃町（山口良一組合長）は13日、町内で栽培・収穫した2016年産のサツマイモ「ムラサキマサリ」を原料に使った本格焼酎「酔い頃」（720ミリリットル）のインターネット販売を始める。

13日からネット販売を開始する本格焼酎「酔い頃」

豊頃にかけて名付けた「酔い頃」は、アルコール度数25度のオリジナル焼酎で、華やかな香りと上品な甘みが特徴となっている。

同ＪＡでは、2014年に農業の６次化の一環で、「ムラサキマサリ」の栽培と焼酎醸造に乗り出した。１年間の試験期間を経て、16年産の「ムラサキマサリ」を、長野県の酒蔵「芙蓉酒造」に原料として持ち込み、1500本を委託醸造した。

昨年暮れから町内の同ＪＡ資材店舗（中央若葉町）とスーパーアグリ茂岩店の２カ所で販売していた。価格は店舗販売が2280円、ネット販売は2376円。

17年産ものは2000本を委託醸造する予定。山口組合長は「今年の冬に販売予定の17年産のものからネット販売の本数を増やしたい」と話している。

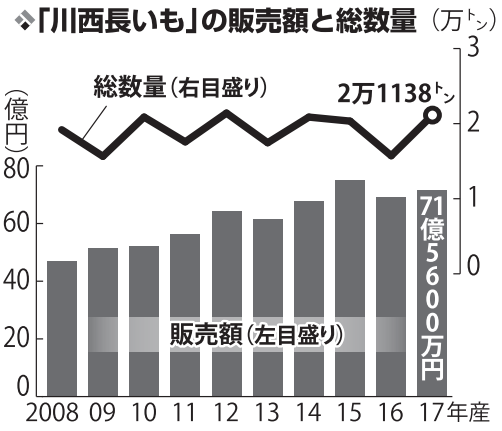
ネット販売は13日から楽天市場内に開設されているＪＡ十勝豊頃町コーナーで行われる。問い合わせは、同ＪＡ営農部（015･574･2101）または同ＪＡ資材店舗（015･574･3110）へ。

長いも販売史上２位　17年産71億円
輸出数量は１割　「十勝川西」　2018年11月29日

十勝管内で昨年春に作付けした2017年産の「十勝川西長いも」の販売額が71億5600万円となり、15年産（75億500万円）に次ぐ過去２番目の高水準となった。昨年産は天候に恵まれ、総数量は15年産を上回ったが、管内と並ぶ主産地の青森県も豊作だったため国内流通量が増え、取引価格が伸び悩んだ。

昨年産の十勝川西長いもは昨秋に全体の55％を掘り出し、残りを今春収穫した。販売は今年10月末までにほぼ完了し、総数量は２万1100トン。15年産より４％多く、台風被害で作柄が悪化した16年産との比較では34％増と急回復した。

総数量の11％に相当する2300トン弱が台湾や米国、シンガポールなどに輸出された。米国向けが1600トンと輸出全体の７割を占め、台湾向けは減った。

十勝川西長いもはＪＡ帯広かわにし、ＪＡめむろなど９ＪＡが生産し、昨年産は265戸の農家が合計541ヘクタール分を作付けした。

18年産は作付戸数が268戸、面積は561ヘクタールに増えた。11月に収穫が始まり、スーパーなどに出回り始めている。今年８月にはＪＡ帯広かわにし別府事業所に冷凍とろろ工場が完成。農家は規格外品の収益向上が見込める。半面、初夏の天候不順が影響し、10アール当たりの収量は昨年産を下回る見通しとなっている。